

企画展示 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

■ 新型コロナ流行下の外国人旅行者の海外旅行・訪日旅行に対する意識
—DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査の結果から—
(2022年4月～7月)

株式会社日本政策投資銀行 (DBJ) と公益財団法人日本交通公社 (JTBF) では、多様化するインバウンド市場において、自治体や事業者がインバウンド施策を実施する際の基礎資料となるデータを広く発信することを目的として、2015年より継続的にアジア・欧米豪12地域 (欧米豪は2016年より調査対象に追加) の海外旅行経験者を対象にインターネットによるアンケート調査を実施しています。今回のギャラリー展示では、この調査の結果を、インフォグラフィックを多用して分かりやすくご紹介します。



貴重書ギャラリー 1F

■ 旅行文化変遷史 (Ⅲ)
～変わり続ける旅のスタイル (戦後編) (2022年4～7月)
■ その2 1970年代後半～1990年代

本企画展は、鉄道と出版メディアの発達、旅行団体の組織化などを背景に旅行の大衆化と近代化が進み、時代とともに旅行スタイルがどのように移り変わっていったのか、そのあゆみを (戦前編) (戦後編) に分け紹介しています。3回目に当たる今回は (戦後編) のうち1970年代後半～1990年代にスポットをあて紹介します。

コロナ禍にあるこの機会に、観光需要の創出・喚起につながった当時の出来事などを振り返ってみませんか。



継続展示中!

1F

- 「旅の図書館 オススメの一冊」
- 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」
- コロナ感染症と観光関連図書

B1F

- 「公益財団法人日本交通公社が
お勧めする研究書 & 実務書100選」
- 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

地域活性化センター 1F

「第9回ふるさとパンフレット大賞」

時代とともに地域の魅力の発信方法は多様化してきていますが、観光地パンフレットは今なお基本的ツールの一つです。

現在、(一財) 地域活性化センターが毎年選定している「ふるさとパンフレット大賞」の最新受賞作品をご提供いただき、館内展示しています。過去の受賞作品も揃えていますので、ご来館の際はぜひご覧ください。



Information

1980～90年代の「るるぶ情報版」が充実しました

旅行情報誌として1884年に誕生した『るるぶ情報版』(JTBパブリッシング) は、間もなく6000号を迎え、38年もの長きにわたり発行され続けているガイドブックです。当館ではこれまで2000年代以降の地域版をすべて保存してきましたが、このたび1980～90年代の情報版も収集をはじめました。時代による紙面の移り変わりが興味深いです。



定期刊行物発刊のご案内

2022年5月下旬発行予定の『観光文化253号』では、広くガイドやガイドツアーを特集テーマとして取り上げて、その本質、実践面での現状と課題、今後の展望などを、我が国を代表するガイドやガイドツアーの関係者からのご寄稿、座談会、インタビュー等より改めて考えます。ご期待ください。

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 19

2022年4月号



青山霊園のサクラ

<https://www.jtb.or.jp/library>



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

1980年代後半～90年代の ポジフィルムをデジタル化

当財団では、長年にわたり国内外の先進観光地の調査研究を行っており、特に1980年代後半～90年代の視察(調査)記録として、国際的な山岳高原(スキー)リゾートや海浜リゾート、温泉地、観光都市や国内の観光地・観光施設等を撮影した写真(ポジフィルム)が保管されています。

このたび、それらの長期的な保存のため、約6,000枚に及ぶ写真をスキャニングしデジタル化作業を実施しました。今後は貴重なアーカイブ資料として研究活用していきたいと思ひます。



デジタル化した
1990年代後半の視察写真
(上: カヌヌ(仏)、下: アスペン(米))

第24～27回「たびとしょCafe」を開催しました

※各回の詳しい内容は、当財団機関誌「観光文化」に掲載します。



第24回(2/18)

テーマ 「ビジョンを共有するためのデザイン」
ゲストスピーカー たなかみのる氏(パラボラ舎)

まちづくりや観光事業にデザインを活かすためには、「本当に作るべき必要なものを見定めること(デザイナーはそれを考えるのが得意)」、「『そと』のまなざしを入れること」、「地域の宝である『あきらめないひと』を孤立させないこと」が大切であり、「地域にあるピュアなエゴ(『わたしはこうがいい』)を線をつないで『目に見える形』にするのがデザインの役目」だとお話いただきました。

第25回(3/3)

テーマ 「人と人をつなぐ架け橋に
～行政職員が挑戦する“宝物”同士のマッチング～」
ゲストスピーカー 片野陽介氏(飯能市農業振興課)

エコツーリズム推進と農業振興に携わった経験を基に、「エコツーリズムと農業で学んだことは、飯能は地域の人々が宝物であること。宝物を見つけるために、とにかく現場に出て人と話すこと。人と人を結ぶことによって生み出される面白いことを発信し続けること」、「自身が架け橋となることで、新たなことが生み出されることは幸せであり、やりがい」とお話しいただきました。

第26回(3/18)

テーマ 「コロナ禍で改めて気がついた観光の意義
～“巻き込まれ力”が楽しい信頼関係～」
ゲストスピーカー 小関みどり氏(一般社団法人大田観光協会)

少しずつ協力者を増やして取り組んだ海苔がテーマのまち歩きプログラムづくりと、その後のコロナ禍における試行錯誤の経験を基に、「“旅”は心身ともに元気になる“健康の源”であり、観光協会はそうしたニーズを支えることができる」、「“巻き込まれ力”や“傾聴力”を大切に、今後も町のみなさんと共に取り組んでいきたい」とお話しいただきました。

第27回(3/22)

テーマ 「和のスキーリゾート
野沢温泉とスポーツイベント」
ゲストスピーカー 森晃氏
(旅館さかや代表取締役、野沢温泉スキークラブ理事長)

1923年の設立当初から「スキー普及心身ノ錬磨及当温泉ノ発達ヲ図ル」を掲げてまちづくりと一体となった取り組みを続ける野沢温泉スキークラブ。現在では、スポーツイベントを誘致し、地域経済だけではなく人材を育てるという形で継承されています。

「スキーを通して地元の良さに触れながら大きくなった子どもたちは、大人になってからも地元に対する誇りを持ち、町にとって欠かせない人材になる」とお話しいただきました。

旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



1 **新しい地域をつくる 持続的農村発展論**
小田切徳美 著 岩波書店 2022年2月 A5判 254頁
「遅れた」地域とされてきた農村の価値が、田園回帰という現象を通して、いま改めて注目されている。現場を歩く研究者たちが、理論と実践という両面から、新しい時代の地域づくりのトータルな姿を描き出す。

2 **「無理しない」観光 価値と多様性の再発見**
福井一著 ミネルヴァ書房 2022年2月 四六判 380頁
これからどんな観光をめざせばよいのだろうか。観光の問題は、現代社会そのものの矛盾と結びついている。本書は社会を広くとらえる視点から、「無理しない」をテーマに、地域を守る新しい観光のあり方を提言する。

3 **人はなぜ食を求めて旅に出るのか フードツーリズム入門**
中村忠司 編著 晃洋書房 2022年2月 A5判 182頁
人はなぜ食を求めて旅に出るのだろうか。第I部ではゲスト側の視点を中心とした「食と旅」について、第II部ではホスト側の視点を中心とした「フードツーリズムと地域・産業」を具体的な事例とともに解説。

4 **太陽系観光旅行読本**
おすすめスポット&知っておきたいサイエンス
オリヴィア・コスキー 著 ジェイナ・グルセヴィッチ 著
露久保由美子 訳 原書房 2021年12月 四六判 281頁
私たちは太陽系観光ツアー代理店。水星から海王星そして冥王星まで、最高の旅をご用意。準備・持ち物からおすすめ観光スポット、楽しいアクティビティ、知っておきたい科学知識まで、カラーイラスト付きでご案内!

5 **オンラインツアーの教科書**
アフターコロナを見据えた「新しい関係人口」と「収益」のつくりかた
佐々木文人 著 やまごころ 2021年11月 A5判 191頁
新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、多くの事業者が取り組み始めたオンラインツアー。観光業界には閉塞感が漂っているが、オンラインツアーに成功する事業者を増やすことが打開策のひとつになれば。

古書探訪 — “古書はいつもあたらしい” —

古い時代の出版物、記録資料である古書は、先人の知の遺産ともいえ、時には現代に生きる私たちに新しいヒントを与えてくれます。当館が所蔵する戦前を中心とした旅行・観光に関する古書・稀観書(約3,000冊)の中から、とっておきの資料をご紹介します。

Information for travelers Landing in japan

Thos.Cook&Son, 1913 88頁

世界ではじめて団体旅行ツアーを催行し、世界一周旅行を実現するなどして、「近代ツーリズムの父」といわれるトーマス・クック(Thoms Cook,1808-1892)は、旅行代理店を世界的に展開した。開国後の日本においても横浜に支社を置き、来日する外国人旅行者に対する斡旋を行った。

本資料は、クック社が1913年1月に発行した英文ガイドブックで、外客誘致組織としてジャパン・ツーリスト・ビューロー(当財団及び株JTBの前身)が設立されて間もない時期にあたる。日本各地の見所や観光する際の重要な情報がコンパクトにまとめられ、表紙からもそのクオリティの高さを感じられる。



この雑誌が面白い!

PAPERSKY

ニーハイメディア・ジャパン

2002年に創刊された、世界各地の自然や文化、暮らしのなかから生まれるストーリーを、ちょっと違った視点から紹介するトラベル・ライフスタイル誌。“地上で読む機内誌”というコンセプトの通り、とてもお洒落で読みやすい。

